

DISCLOSURE

2025

アニコム損害保険の現状

どうぶつの未来のために



日頃より、アニコム損害保険をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社の経営方針・事業概況・財務状況などについて皆さまにご理解いただきたく、
「アニコム損害保険の現状 2025」を発行いたしました。

本誌が、当社をご理解いただく一助として、皆さまのお役に立てれば幸いに存じます。

※本誌は「保険業法第111条」および「同施行規則第59条の2及び第59条の3」に基づいて作成したディスクロージャー誌
(保険会社に係る業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

アニコムグループ理念体系

グループ理念体系は、経営の最上位概念であり、「パーパス（存在意義）、ビジョン（経営理念）、ミッション（企業使命）、クレド（行動指針）」から構成されています。

グループ理念体系や理念のもと、中期経営計画をはじめとした経営戦略を実行し、
経済的価値と社会的価値の創造を実現してまいります。

パーパス（存在意義）

世界中に「無償の愛」を伝え、
平和を取り戻し、維持発展させる。

ビジョン（経営理念）

ani + communication = ∞
(命) (相互理解) (無限大)

アニコムグループは、
それぞれの命が持つ個性の違いを互いに尊重しあい、
分業協力することで、世界中に「ありがとう」を拡大します。

ミッション（企業使命）

- ①戦争抑止、平和の回復・維持発展に資する
行動をペット業界として行う使命
- ②社会発展とペット業界発展が同調した
サステナブルな業界へ変革させる使命
- ③高齢者・障がい者・子ども・社会を
サポートする使命

クレド（行動指針）

1. オープン志向

オープンで、「対話のできる法人」を目指します。組織が大きくなっても、お客様やステークホルダーの皆様の声が、法人のすみずみまで届くよう努力し、お客様やステークホルダーの皆様から「見える」「話せる」と実感していただける「対話のできる法人グループ」を目指します。

2. マーケットアウト志向

常にお客様の視点に立って、新しい価値の創造に努めます。常にお客様の視点に立ち、お客様の求めるサービスを創り出す、マーケットアウト(お客様の真のニーズにお応えすること)を意識した経営を徹底し、お客様の願いを実現するとともに、新しい価値を創造することに努めます。

3. ロールプレイング志向

個々に与えられた役割(ロール)を最高に演じる(プレイング)ことで、個人と組織の飛躍的成長を促進します。
個々と組織の役割を明確にし、その役割を役者のごとく最高に演じることで、何事にも果敢に挑戦し続け、常に新たなスキルを吸収し、飛躍的な成長を促進させる経営を実践します。



CONTENTS

シンボルマーク



「はっぴ」のシンボルマークは、4枚のハート型の「はっぴ」で構成されています。ハート型でアニコムグループの理念である「命」を連想させるとともに、4枚の「はっぴ」をつなぐことで、分業協力する「命」の姿を表しています。色は、「命」をイメージする植物の芽の色、アニコムライトグリーンを配しています。

アニコム損保の経営方針

私たちアニコム損保は、ペット保険を通じて、
飼い主の皆様の「涙」を減らし、「笑顔」を生みだす
保険会社を目指します。

家族であるどうぶつがケガや病気をして喜ぶ飼い主は
いません。つまり、ケガや病気で保険金をお受け
取りになられることは、飼い主の皆様が『涙』を流
していることを意味します。

アニコム損保では、保険金支払データの分析を通じ
て、どうぶつがケガをしない、病気にならないため
の情報の提供など、飼い主の皆様の『涙』を減らし、
『笑顔』を生みだす保険会社を目指して、グループ
をあげてケガや病気の予防促進に取り組んでまいり
ます。

会社概要
沿革
トップメッセージ
トピックス
予防への取り組み
社会貢献活動
代表的な経営指標

I 経営について

- 1 アニコムグループの概要
- 2 2024年度の事業概況
- 3 コーポレート・ガバナンスの状況
コーポレート・ガバナンス体制
反社会的勢力の排除
- 4 内部統制システム
- 5 コンプライアンス
コンプライアンス体制
勧誘方針
- 6 リスク管理
- 7 個人情報の保護
特定個人情報保護基本方針
- 8 利益相反取引の管理
利益相反管理基本方針
- 9 募集制度
- 10 お客様本位の業務運営方針
- 11 「お客様の声」への対応

II 業務について

- 1 保険のしくみ
- 2 約款
- 3 取扱商品
- 4 保険金のお支払い
- 5 各種サービス

III コーポレートデータ

- 1 株式の状況等
- 2 会社の組織
- 3 役員の状況
- 4 会計監査人の状況
- 5 従業員の状況等

IV 業績データ

- IV-1 主要な業務に関する事項
 - 1 直近の5事業年度における主要な業務の
状況を示す指標
 - 2 業務の状況を示す指標
- IV-2 財産の状況
 - 1 計算書類
 - 2 保険業法に基づく債権
 - 3 単体ソルベンシー・マージン比率
 - 4 時価情報
 - 5 会計監査及び代表者による財務諸表に
関する確認書

損害保険用語の解説

会社概要

(2025年7月1日現在)

社 名（英 文 社 名）	アニコム損害保険株式会社（Anicom Insurance, Inc.）
代 表 取 締 役	野田 真吾
設 立 年 月 日	2006年1月26日 （アニコム インシュアランス プランニング株式会社として設立）
開 業 日	2008年1月10日
本 社 所 在 地	〒160-8352 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
電 話 番 号	03-5348-3777
資 本 金	6,550百万円
従 業 員 数	488名（2025年3月31日現在）
株 主	アニコム ホールディングス株式会社（100%）
事 業 内 容	損害保険業

沿革

2006年 1 月	アニコム インシュアランス プランニング株式会社設立
2007年10月	資本金を35億円とする（資本準備金6億1,400万円）
2007年12月	金融庁より損害保険業免許取得 アニコム損害保険株式会社へ商号変更
2008年 1 月	ペット保険「どうぶつ健保」販売開始 （4月1日以降保険責任開始契約）
2008年 4 月	ペット保険「どうぶつ健保」補償開始
2009年 3 月	12億円増資し、資本金41億円に（資本準備金12億1,400万円）
2010年 3 月	親会社のアニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所マザーズ市場へ上場 5億円増資し、資本金43億5,000万円に（資本準備金14億6,400万円）
2012年 3 月	7億円増資し、資本金47億円に（資本準備金18億1,400万円）
2013年 9 月	7億円増資し、資本金50億5,000万円に（資本準備金21億6,400万円）
2014年 6 月	アニコム ホールディングス株式会社が 東京証券取引所市場第一部へ市場変更
2015年10月	本社を新宿区西新宿へ移転
2018年10月	30億円増資し、資本金65億5,000万円に（資本準備金36億6,400万円）
2022年 4 月	アニコム ホールディングス株式会社が東証の市場区分の 見直しにより、プライム市場に移行

トップメッセージ

日頃より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は「涙を減らし、笑顔を生みだす保険会社」を経営方針に掲げ、ペット保険の普及に努めております。おかげさまで、2025年3月末時点の保有契約は128万7,923件、対応動物病院様は6,964病院、保険金の年間お支払件数は約457万件となりました。

当社を支えてくださるご契約者、動物病院の皆さま、代理店の皆さまはじめすべての方々に心より御礼申し上げます。

2024年度は、ペット保険業界において競争環境が厳しさを増す中、当社は「予防型保険会社」としての取り組みを推進してまいりました。

どうぶつの腸内フローラを測定する「どうぶつ健活」の測定結果からは、犬の腸内フローラの多様性と健康状態との関連性が明らかとなっており、さまざまな食材を摂取することが腸内フローラの多様性向上に寄与することがわかっています。

これを受け、アニコムグループではフードの開発を進め、アニコム パフェ株式会社が食材の多様性を意識した「7Days Food」の販売を開始しました。

さらに、がんの予防に向けた研究・分析にもグループ全体で取り組んでおります。

今後も、私たちの「家族」であるどうぶつの安心を支えるペット保険を「当たり前の存在」にすべく、ペット保険の普及と進化に努めながら、どうぶつと飼い主さまが、安心して健康に暮らせる社会作りを支えるべく、アニコムグループの役職員一丸となって尽力してまいります。

引き続き、より一層のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2025年7月

アニコム損害保険株式会社
代表取締役

野田 真 吾



トピックス

■2024年グッドデザイン賞受賞

「どうぶつ健保」が、“入って健康になる保険”として、ペット保険としてはじめて※2024年度グッドデザイン賞を受賞しました。創業時から提供している、動物病院の窓口で人の健康保険証のように使える「どうぶつ健康保険証」、どうぶつの健康状態を体の中から見える化する腸内フローラ測定サービス「どうぶつ健活」などをご評価いただきました。

今後も「どうぶつ健康保険証」を世界で一枚の“家族の証”として多くのご家族にお届けするとともに、更なるサービスの向上を目指してまいります。

※当社調べ



**GOOD DESIGN
AWARD 2024**

■東京海上日動と共同でペット保険の販売を開始

2024年6月から、東京海上日動火災保険株式会社と共同でペット保険の販売を開始しました。当社のペット保険に関する知見、動物病院等とのネットワーク、東京海上日動が有する国内最大級の代理店網のシナジーを創出していくことで、ペット保険の普及率を向上させてまいります。



■アクサダイレクトとペット保険事業で業務提携契約を締結

世界有数の保険・金融グループであるAXAグループの一員であるアクサ損害保険株式会社（アクサダイレクト）とペット保険事業に関する業務提携契約を締結しました。

これによりアクサダイレクトは、アニコム損保の代理店としてペット保険の販売業務を行うとともに、ペット保険の自社商品の引受業務を停止しました。2024年11月30日以降に同社の保険契約の満了を迎えるお客様に対しては、アニコム損保のペット保険商品をご案内しております。

■オンライン保険金請求サービスを開始

2024年5月から、ご契約者専用マイページに必要な情報を入力いただくだけで、簡単に保険金が請求できるオンライン保険金請求サービスを開始しました。本サービスの提供開始により、全国の対応病院の窓口で「どうぶつ健康保険証」を提示いただくだけで保険金の請求手続きが完了する窓口精算、LINEまたは郵送による請求とあわせて、さらに便利にペット保険をご利用いただけるようになりました。



現
状

■手術支援ロボットのリバーフィールドと共同研究開発契約を締結

当社とアニコム先進医療研究所株式会社は、リバーフィールド株式会社と、医療ロボットの設計および製造、またこれらの過程で生じる知的財産の創出等を目的とした共同研究開発契約を、2025年2月に締結しました。

これを受け、2025年9月には、アニコム先進医療研究所株式会社が外科・内科・画像診断をはじめとする多様な診療領域に対応し、どうぶつの状態に応じた高度な治療選択が可能な体制を整えた「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」を開業予定です。アニコムグループ全体で、どうぶつ一人ひとりに最適な医療を提供することを目指してまいります。



「JARVISどうぶつ医療センター Tokyo」イメージ

■大阪・関西万博 日本MA-T工業会のブースにてペット用口腔ケアジェルを無料配布

当社が加盟する一般社団法人日本MA-T工業会は、2025年10月まで開催予定の大阪・関西万博『大阪ヘルスケアパビリオン』内の『ミライのヘルスケアゾーン1』に出展しています。

本展示ブースにおいて、当社はペット用MA-T口腔ケアジェルの無料サンプリングを実施するとともに、ペットの口腔ケアの重要性を「生命の歴史」と重ねて考える動画（日本語・英語）を常時上映しています。

MA-Tを活用した取り組みの一端として、当社の活動を紹介しています。



予防への取組み

■犬・猫の熱中症週間予報の配信

当社では、飼い主の適切な対策により「防げる病気」である熱中症を予防するため、2013年から「犬の熱中症週間予報」を開始し、2022年6月からは、「猫の熱中症週間予報」も配信しています。

犬と猫の「熱中症週間予報」は、株式会社ライフビジネスウェザーと当社が独自に開発した熱中症指標をもとに作成しています。犬と猫それぞれの体高や代謝などを考慮した指標と1週間分の気象予報から、全国主要10都市の熱中症注意レベルを「やや注意」「注意」「警戒」「厳重警戒」の4段階に分け、それぞれ犬と猫のイラストで表示します。あわせて保険金請求データやアンケート結果から熱中症が発生する状況などを分析して公開し、予防啓発につとめています。

今後も、熱中症を含めたさまざまな病気に対して飼い主さまの知識向上を図り、どうぶつたちが健康に暮らせるよう努めてまいります。



■『家庭どうぶつ白書 2024』発行

アニコムグループでは2010年から、当社のペット保険「どうぶつ健保」の保険金支払い実績、独自に実施したアンケート調査の結果など、家庭どうぶつに関わるさまざまなデータを「家庭どうぶつ白書」として1冊にまとめ、毎年発行しています。

2024年12月10日に発行した『家庭どうぶつ白書2024』では、猫の飼育頭数の増加を受け、猫種別の疾患統計データを従来の8種から10種に拡大しました。その他にも、どうぶつの介護の経験や、オーラルケアの実施頻度など、昨今のペット業界のトレンドに合わせた飼い主さまの意識調査結果をご紹介します。

表紙の犬や猫のモデルはSNSを通じて公募し、多くの方々はどうぶつの病気やケガ、その予防に関する情報に興味を持っていただけるよう努めています。引き続き、皆さまのお役に立つ情報を提供してまいります。



■腸内フローラ測定サービスのリニューアル

当社では、腸内フローラ測定サービス「どうぶつ健活」を通じて、約60万頭の犬、約20万頭の猫（2025年1月時点）の腸内フローラ測定を行ってきました。これらのデータをもとに解析方法をアップデートすることで、より高精度な解析が可能となったことをうけ、「歯周病リスクチェック」「心臓チェック」の測定項目を追加しました。また、従来の「腎臓チェック」や「アレルギー体質チェック」などの項目においても、より高精度な結果をご提供できるようになりました。

今後もサービスの向上に努めてまいります。



現
状

■腸内フローラの多様性と健康に関する取り組み

これまでの研究で、犬・猫の腸内フローラの多様性が低下するほど、疾病の有病率が上昇する傾向のあることがわかっています。当社グループでは、腸内フローラの多様性を高める方法のひとつとして、多様な食刺激を与えることが重要であると考え、アニコム パフェ株式会社でフードの開発を進めています。

2024年は、愛犬の食事を美味しく・健康的にサポートするトッピングフード「7Days Food」、手軽に愛犬・愛猫の健康をサポートできるスティック型のおやつ「CARE PUREE」の販売を開始し、好評をいただいております。



社会貢献活動

アニコムグループでは、ペットが持つ「無償の愛」で「心の発電力」を高めてくれる力を通じてさまざまな社会的課題の解決に貢献し、また豊かな地球環境の維持と全ての生命の幸せを増進させることで、更なる企業価値向上と持続的成長を果たしていくことが存在意義であるにとらえ、グループの理念体系を定めています。この理念体系に基づき、サステナビリティ基本方針を定め、持続可能な社会に向けた取り組みを推進しています。

■どうぶつへの貢献

■PAWプロジェクト

アニコムグループでは、2012年度からグループ会社横断プロジェクト「PAW (Project of Animal Welfare)」を立ち上げ、動物愛護や動物福祉に資する活動を行っています。

動物愛護週間には、毎年恒例となる埼玉県とのイベントを開催しており、第11回となった2024年度は、「一緒に安心 みんなで避難」をテーマにJR浦和駅でノベルティを配布しました。

また、10月に開催された「彩の国さいたま動物愛護フェスティバル2024」へ参加し、防災に関する展示や、災害時などにも役立つ首輪作りのワークショップを行いました。



■殺処分ゼロ

2023年4月から、三重県多気町の「ani TERRACE」を運営し、飼い主がいらない犬や猫と新しい飼い主をつなげる活動を行っています。2024年度は、犬・猫69頭が新しいご家族のもとに迎えられました。「明るい」「あたたかい」「幸せ」な施設をコンセプトに、多くの方に訪れていただける施設を目指し活動を継続しています。



■人への支援

■自然災害におけるペット救援募金の実施

2024年4月10日から5月12日に行った「台湾東部沖地震におけるペット救援募金」を通じて、皆さまからいただいた寄付金とアニコムグループ社員からの寄付とあわせて、合計1,670,548円を2024年5月22日にIFAWへ寄付いたしました。

2025年1月には、「ロサンゼルス山火事のどうぶつ救援募金」を実施し、皆さまからいただいた寄付金と、アニコムグループからの200万円、またアニコム社員からの寄付とあわせて、合計4,721,911円を2025年3月25日にIFAW（国際動物福祉基金）へ寄付いたしました。

寄付金は、被災したどうぶつたちや飼い主の皆さまのために役立てていただいております。



■災害救助犬の育成への協賛

当社は、一般社団法人ジャパンケネルクラブ（JKC）が行っている災害救助犬（地震などの災害現場で、瓦礫に覆われた被災者を捜索し、自衛隊、消防、警察等による救助部隊をサポートする犬）の育成活動に協賛しています。

訓練所で訓練を受け、認定試験に合格した犬だけがJKC災害救助犬として認定を受け、被災現場等へ出動することができます。2024年の認定試験は、60頭が受験し27頭が合格しました。また、2024年10月に開催された災害救助犬競技大会には、33頭が参加し、服従や捜索の技能を競いました。そのほか、自治体等の主催による防災訓練・イベントに27ヶ所、のべ63頭が参加し、災害現場において期待に応えられるよう活動しています。



当社独自の取り組みのほか、一般社団法人日本損害保険協会の一員として、事故、災害及び犯罪の防止・軽減にむけて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。同協会での取り組みについては、ウェブサイトをご覧ください。

■事故・災害・犯罪の防止・軽減への取り組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/index.html>

■環境問題への取り組み

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/eco/index.html>

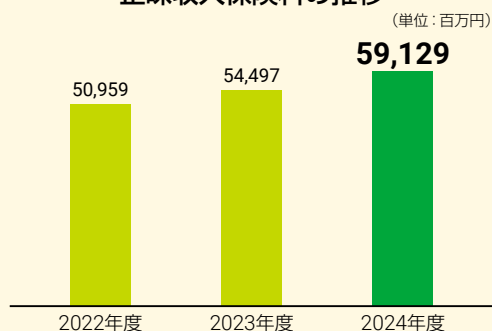
代表的な経営指標

区 分	2022年度	2023年度	2024年度
正味収入保険料	50,959百万円	54,497百万円	59,129百万円
正味損害率	57.0%	58.0%	58.3%
正味事業費率	34.1%	32.5%	31.3%
コンバインド・レシオ	91.1%	90.5%	89.6%
保険引受利益	2,967百万円	3,502百万円	3,918百万円
経常利益	3,632百万円	4,069百万円	5,183百万円
当期純利益	2,515百万円	2,864百万円	3,680百万円
単体ソルベンシー・マージン比率	373.1%	333.7%	345.2%
総資産額	48,330百万円	49,786百万円	55,217百万円
純資産額	20,738百万円	20,100百万円	22,094百万円
その他有価証券評価差額	△1,555百万円	△1,248百万円	△1,916百万円
不良債権の状況	—	—	—

正味収入保険料（対前期比）

591億29百万円（108.5%）

正味収入保険料の推移



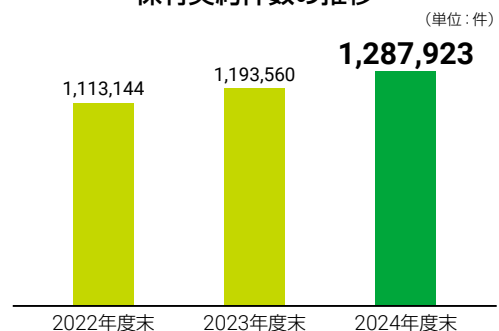
■正味収入保険料

ご契約者から受領した保険料に、保険金支払い負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との再保険契約のやり取りを加減した金額であり、売上規模を示す指標です。

■関連する指標－保有契約件数

ペット保険の保有契約件数は、2025年3月末で前年比9.4万件プラスの128.7万件となりました。

保有契約件数の推移



■保有契約件数

算出日時点で保険契約が有効に成立している契約の件数です。

正味損害率

58.3%

正味損害率

(単位：%)



年度	正味損害率 (%)
2022年度	57.0
2023年度	58.0
2024年度	58.3

2022年度 2023年度 2024年度

■正味損害率

正味収入保険料に対する正味支払保険金と損害調査費との合計額の割合のことで、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。

正味事業費率

31.3%

正味事業費率

(単位：%)



年度	正味事業費率 (%)
2022年度	34.1
2023年度	32.5
2024年度	31.3

2022年度 2023年度 2024年度

■正味事業費率

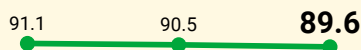
正味収入保険料に対する保険事業上の経費の割合のことで、正味損害率と同様に、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。この経費には、営業費及び一般管理費のうち、保険引受に係る金額及び諸手数料が含まれます。

コンバインド・レシオ

89.6%

コンバインド・レシオ

(単位：%)



年度	コンバインド・レシオ (%)
2022年度	91.1
2023年度	90.5
2024年度	89.6

2022年度 2023年度 2024年度

■コンバインド・レシオ

正味損害率と正味事業費率の合算率で、損害保険会社の保険本業での収益力を示す指標です。一般的にこの指標が低いほど収益性が高いといわれています。

保険引受利益（対前期比）

39億18百万円（111.9%）

保険引受利益

(単位：百万円)



年度	保険引受利益 (百万円)
2022年度	2,967
2023年度	3,502
2024年度	3,918

2022年度 2023年度 2024年度

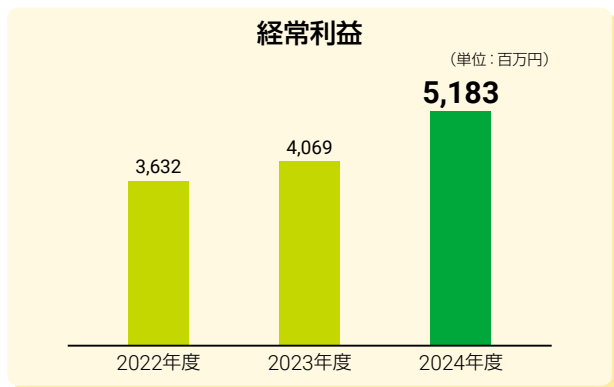
■保険引受利益

正味収入保険料等の保険引受収益から、保険金・損害調査費等の保険引受費用と保険引受に係る営業費及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したもので、保険本業での最終的な損益を示すものです。

代表的な経営指標

経常利益（対前期比）

51億83百万円（127.3%）

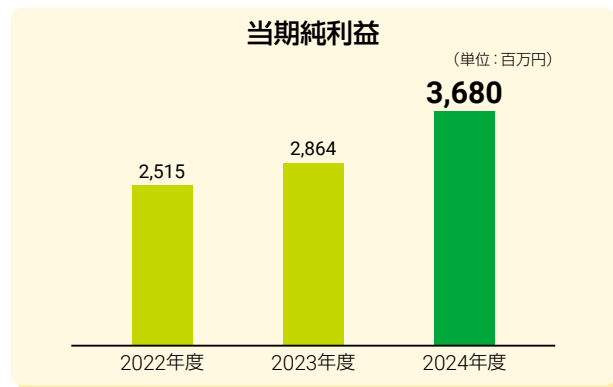


■経常利益

正味収入保険料、利息及び配当金収入、有価証券売却益等の経常収益から、正味支払保険金、有価証券評価損、営業費及び一般管理費等の経常費用を差し引いたもので、経常的に発生する取引から生じた損益を示すものです。

当期純利益（対前期比）

36億80百万円（128.5%）

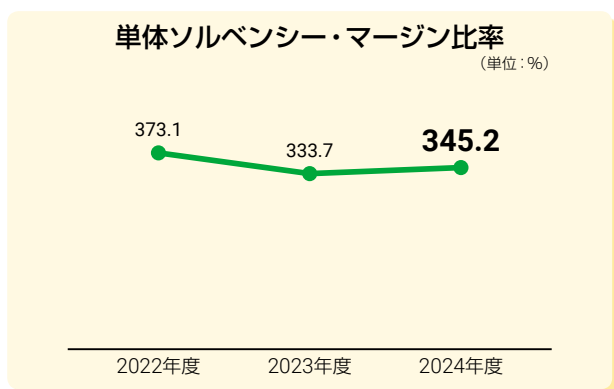


■当期純利益

左記の経常利益に固定資産処分損益や価格変動準備金繰入額等の特別損益、法人税及び住民税、法人税等調整額を加減したもので、事業年度に発生した全取引によって生じた損益を示すものです。

単体ソルベンシー・マージン比率

345.2%

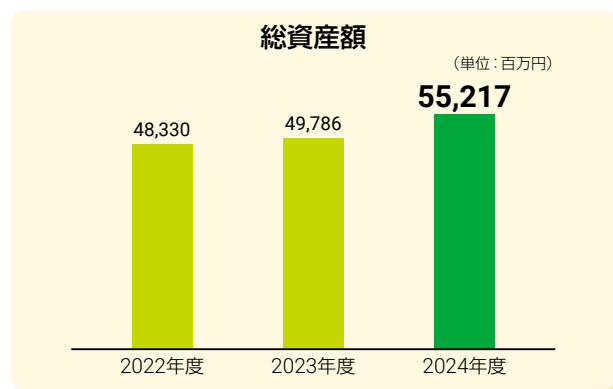


■単体ソルベンシー・マージン比率

巨大災害の発生や、保有資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超えて発生し得る危険に対する、資本金・準備金等の支払余力の割合を示す指標です。行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用されており、この数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

総資産額

552億17百万円

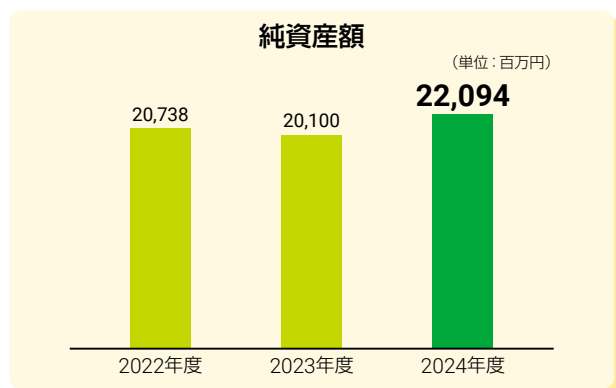


■総資産額

保険会社が保有する資産の総額で、具体的には貸借対照表上の「資産の部合計」です。保険会社の資産規模を示すものです。

純資産額

220億94百万円

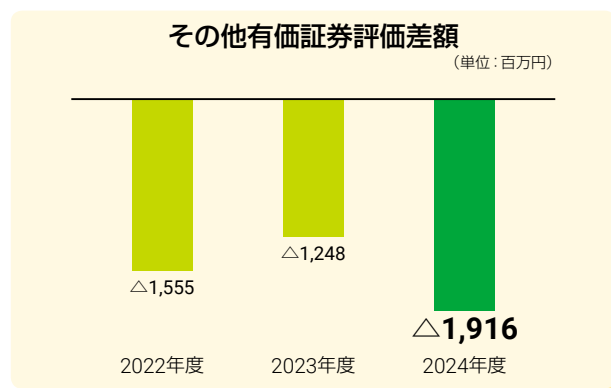


■純資産額

総資産額から、責任準備金等の負債額を控除したもので、具体的には貸借対照表上の「純資産の部合計」です。保険会社の担保力を示すものです。

その他有価証券評価差額

△1,916百万円



■その他有価証券評価差額

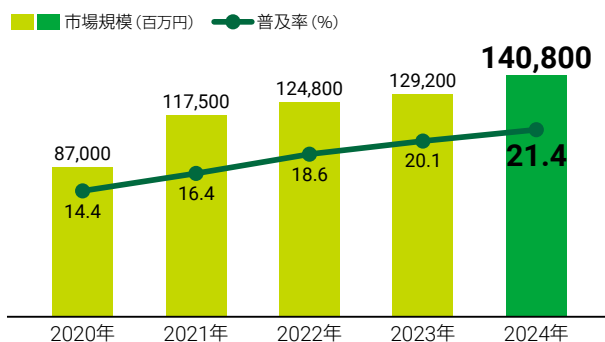
保有有価証券等に占める「その他有価証券」の時価評価後の金額と時価評価前の金額の差額を指します。財務諸表上は、この評価差額から税金相当額を控除した金額を、貸借対照表の純資産の部に「その他有価証券評価差額金」として計上しています。

■関連する指標ーペット保険普及率

ペット保険を扱う会社は計18社あり、日本国内の普及率は、21.4%と順調に伸長しています。

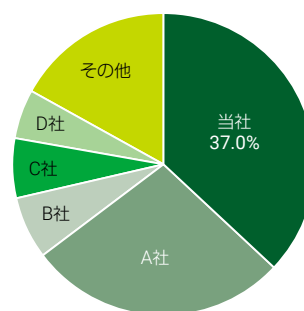
当社は、人の健康保険制度と同様に、対応動物病院で利用できる「窓口精算システム」や、お気に入りのペットの写真がプリントされた「どうぶつ健康保険証」等にご支持をいただき、ペット保険シェアNo.1を維持し続けています。

ペット保険市場規模の推移 (※)



※株式会社富士経済「2025年 ペット関連市場マーケティング総覧」調査
普及率 ペットフード協会令和6年全国犬猫飼育実態調査より算出

2024年マーケットシェア (※)



<保有契約件数ベース>